

二〇一九年二月九日に逝去された大濱徹也氏（筑波大 学名誉教授）のキリスト教関係史資料・蔵書が寄贈されることになり、同年五月から一二月にかけて六回にわたり、筑波と札幌から合計約二〇〇箱分の貴重な蔵書類が移送された。そのなかには外国人宣教師関係資料も含まれている。

二〇一九年度には、立教大学学長を務めた元田作之進関係資料が資料センターに寄贈された。元田作之進の長男稔氏から充隆氏へと移管された資料群である。そのなかには滞米中英文日記を含む自筆の日誌や手帳など、貴重な資料が数多く含まれている。二〇二〇年度は同資料のデジタル化、修復、保存の作業をおこなった。また、二〇一八年度より「元田作之進英文日記」のテキスト起しと下訳を行い、二〇二三年度までに一八九二年一月から一八九四年二月まで完了した。

二〇二二年度は、フランク&メイダ・コールドレイク・コレクションについて整理保存、仮目録作成作業を開始し、二〇二三年度に作業を完了した。

元田作之進の二男茂氏から茂氏の長男の進氏に移管された資料についてもすでに資料センターが一時的に預かりデジタル撮影をおこなって返却したが、二〇二一年一月に進氏から作之進関係のこのオリジナル資料が資料センターに寄贈された。

## 研究プロジェクト6 「立教学院の戦後」

宮本 正明

本年度は、新規インタビュー調査として、一九九八～二〇〇二年、二〇〇六～二〇一〇年にかけて二期にわたり立教大学総長を務めた大橋英五氏への聞き取り調査を実施した。来年度も引き続き、立教関係者へのインタビューを行ない、『立教学院百五十年史』編纂の資料とする予定である。

また、一九六九年の「立大紛争」に際し、立教大学写真部により撮影された写真約三〇〇〇点が残されていることがわかり、現在その写真を所蔵する「A A J P S 一般社団法人もう一つの写真記録」と共同で、「立大紛争」参加者との座談会を開催した。A A J P S が所蔵する写真は今後、当センターに寄贈される予定である。

一方、関係資料の整理・デジタル化に関して、立教大学の戦後史の基幹資料である「立教大学庶務課文書」については、昨年度に基礎的な整理が完了し、現在は本資料所収文書の細目レコードを点検しつつ、当センターの内部用のデータベースに細目レコードを蓄積する作業を進めている。なお、同資料の保存のため、二〇二〇年度

より、保存容器の入れ替え作業を実施している。

また、昨年度までの間に、学内発行誌の『ニュース・セントポール 立教大学校友会会報』（第一号、一九五三年）第二七四号、一九七六年、号外を含む）およびその後継誌『セントポール 立教大学校友会会報』（第二七五号、一九七六年）第四三七号、二〇一六年）の第一号）第一〇九号、第二八三号）第三一〇号、第三六四号）第四三七号および第三九三号（別号）までの記事見出し一覧データを作成し、内部用のデータベースに蓄積して年史編纂の資料とした。

加えて、本年度は、既に記事見出しの一覧作成および細目レコードの蓄積を実施した学内誌の『チャペル・ニュース』について、第一号（一九五一年六月））第六二四号（二〇二二年一一・一二月）の誌面のデジタル化作業を実施した。

以上に述べた資料の整理作業や記事目録の作成のほかに、旧大学史資料室から引き継いだ資料の保存・修復処理や、戦後の立教大学の各部署で保存されてきた文書群の新規受け入れを行なった。新規に受け入れた文書群には、「法務研究科移管資料」や「原子力研究所移管資料」（二〇二二年度）などがある。これらの文書群についても順次、整理・保存を進め、立教学院の戦後史の資料として活用していきたい。

〔インタビュアー・座談会の実施日〕

・大橋英五氏（二〇二三年七月二七日）

【老川慶喜・太田・宮本】

・「立大紛争」をめぐる座談会（第一回：二〇二三年一月二五日／第二回：二〇二三年一月二四日／第三回：二〇二三年一月二二日／第四回：二〇二四年一月一六日）

【老川・佐藤雄基・太田・宮本】